

【導入経過】

- ・老朽化した焼却炉の更新において、民間の強みを生かした汚泥有効利用技術を採用
- ・汚泥の有効利用を図りつつ、長期にわたり事業の効率化を図る
- ・長期的に汚泥の全量有効利用を行い、運営の安定化を図る

○全国初の民間発案によるPFI事業

○平野下水処理場の汚水処理過程で発生する下水汚泥を固形燃料化した上で、火力発電所の石炭代替燃料とすることで下水汚泥の全量有効利用を行う事業（PFI手法を導入した汚泥有効利用施設）

事業内容	汚泥を処理し、固形燃料化物を生成し、火力発電所で有効利用を図る
事業期間	20年間 [平成26年～平成45年]
事業費	約177億円(税込) ([建設]約59億円 [管理・運営]約118億円/20年間)
事業効果	・炭化燃料化物生成量 8,558 t-DS/年 ・20年間で約9億円の市の財政負担の削減効果 (VFM 約6%)
主要設備	・炭化炉 処理能力150 t-wet/日 × 1基

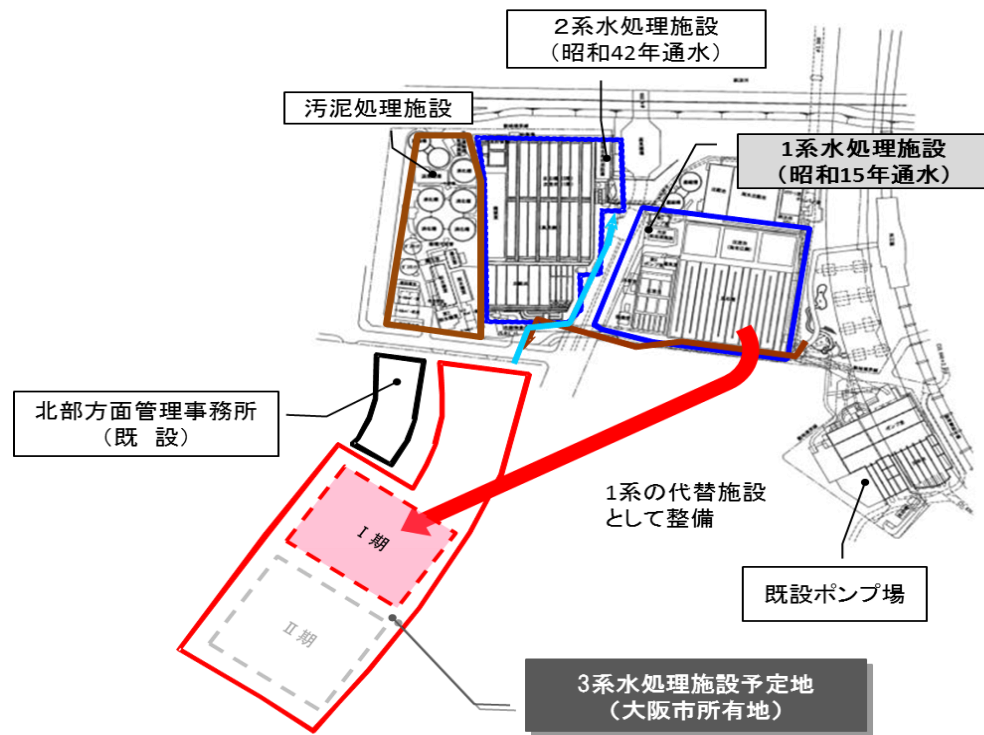


【導入経過】

- ・老朽化した水処理施設の早期更新、合流式下水道の改善の法定期限、高速道路事業整備等により早期の事業実施が求められる。
- ・下水処理場の基幹である水処理施設を、処理方法を制限せず性能発注し、一体的な整備を行うことで、コスト縮減及び工期短縮を図る

- 全国初の下水処理場の水処理施設のPFI事業
- 老朽化した1系水処理施設の更新のため、3系水処理施設を整備
- 水処理の過程のすべての施設を一括して整備し保全管理を実施

事業内容	3系水処理施設を整備し、流入する下水を適切・効率的に処理する
事業期間	24年間 [平成28年度～平成51年度]
事業費	手続き中のため非公表
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> ・流入下水の高度処理 77,000m³/日の効率的実施 ・(VFM 約5%)
主要施設	<ul style="list-style-type: none"> ・沈殿池、反応槽及び水処理設備 (水処理方法による)



PFI手法の手続きと従来型の手続きの一般的なフロー(大阪市PFIガイドラインより)

